

## 福井ナカミチ遺跡 (志賀町)

羽咋郡志賀町福井にある福井ナカミチ遺跡は、旧福野潟の南側、眉丈山系から連なる低丘陵の裾に位置する弥生時代と奈良・平安時代の集落跡です。主要地方道志賀田鶴浜線の道路改良事業に伴い、平成23年度に続き調査を実施しました。

調査区のほぼ全域で平安時代の土器が出土しました。特に、調査区西側で検出した溝から9世紀の土師器、須恵器が大量に出土し、須恵器の中には「至」の異体字や「東」の文字が記された20点以上の墨書土器や、人面墨書土器と呼ばれる人の顔が描かれた坏も含まれます。平成23年度に出土した銅製の帯金具はこの溝の上層からの出土です。

なお、この溝から九州型石錘が出土しました。大型の製品で一般的な滑石製ではなく凝灰岩製です。九州型石錘は弥生時代中期から古墳時代後期にかけて北部九州の玄界灘沿岸に存在するといわれています。溝の時期とは違いますが、地元には北部九州の宗像族との繋がりを示す伝承もあり、興味深い出土遺物です。



遺跡遠景 (北から)



墨書土器の一部



人面墨書土器



九州型石錘